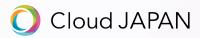
特定非営利活動法人 Cloud JAPAN 2020 年度 活動報告書

令和3年3月末日



特定非営利活動法人 Cloud JAPAN 代表理事 田中 惇敏

mail. info@cloud-japan.org tel. 0226-29-6514 fax.0226-25-7523



<u></u> 因 次

- 1. ソーシャルアントレプレナーが集う場づくり支援事業
 - 1.1 子育てシェアスペース Omusubi
 - 1.2 錦江町ゲストハウス Yorodde
 - 1.3 建築ストック活用の大衆化を目指した支援の研究
- 2. ソーシャルアントレプレナーが集う場の運営支援事業
 - 2.1 気仙沼ゲストハウス "架け橋"
- 3. ソーシャルアントレプレナーの資金調達支援事業
- 4. 地域で活動するソーシャルアントレプレナーに係る情報発信事業
- 5. ソーシャルアントレプレナーの育成及び事業促進の教育支援事業
- 6. 運営組織
- 7. 取材対応
 - 7.1 書籍出版
 - 7.2 新聞、メディア
- 8. 収支報告
 - 8.1 2020年度活動計算書
 - 8.2 事業別損益の状況
 - 8.3 過去6年の助成受託実績
- 9. 終わりに

1. ソーシャルアントレプレナーが集う場づくり支援事業

本事業では、全国のソーシャルアントレプレナー(NPO 法人 Cloud JAPAN では「誰かのために何かをする喜びを楽しんでいる人たち」と定義する)が 地域貢献する上での活動を支援している。

2020年度は新型コロナウイルスの影響により、例年のごとく実際に訪れて支援することは難しかったが、社会環境変化に即したオンライン指導環境の整備により、コロナ対応や政府の各支援制度の活用方法などを中心とした支援を続けることができ、2019年度に活動していた全ての支援先において閉業せずに年度末を迎えることができた。

また、空き家活用においては、改修 WS の参加者を地元の人に限定するなど感染防止に配慮した上で、子育てシェアスペース Omusubi の「リラックスルーム」の完成を見ることができた。(次項、写真の通り)この事業運営に当たっては、採用を支援した地域おこし協力隊のソーシャルアントレプレナー佐藤祐美氏を支援する形で進めていった。

また、起業支援についてはオンラインを中心に行ってきた。本年度は子育てママ2名の起業(共に2021年度登記予定)を中心に地域で活躍する女性の支援に力を入れている。行政や民間団体、財団と連携して「子育てコレクティブインパクトプラットフォーム」を設立し、弊法人代表の田中が代表に就任している。2021年度から3年間に渡って集中的に支援していく計画である。

大きな社会情勢の変化の中で、価値を再認識するもののあれば、元に戻らないものもある。私たちも支援のあり方を変えていく必要があり、俗人的でリソースの限られる現場での支援から、今年度の支援によって得たノウハウを元に全国民創造社会を見据えた社会課題解決のコツを抽出し、全ての人に提供できるスキームを作っていくべく、社内の研究チームを立ち上げた。(詳細は 1.3 参照)

今後来るであろう無拠点居住時代を見据えると、幼児期及び幼児期の子どもを持つ子育て世代の定住性のみがボトムネックとなる。その課題を先取りし、子育てしやすい環境を空き家やテクノロジーを用い、コレクティブインパクトを出していくことこそが地域が生き残る唯一の手段であると感じている。

子育て環境は子どもの環境をよくするだけでは改善されない。子育て中の母親の雇用支援、母親向けの保養サービス、子育て世代への企業・行政の手厚い支援、子育て世代以外の子育て世代への寛容な地域の雰囲気を醸成しなければ「子育てしやすい地域」とは呼べないだろう。

コロナ蔓延をはじめとした今後も起こりうる社会情勢の変化に機敏に対応 し、テクノロジーの力をもってして、地域の抱える課題を包括的に対処する ことこそが今を生きる私たちに求められていると捉え、引き続き事業を進め ていく。

ķ

4

4

*

ζ

5

3

今日の人生

【幼少期: $0\sim5$ 歳】 一般的には母方の実家近地を ど母子ともに安定する状態を で原は住う場所に住う。 家は住う場所の制約を受っ は、仕事は父親のみが行うこ とが多い。

【成長期:6~18歳】 居住区の小中学校に通い、偏 差値に対応した近隣の高校に 通う。

【青年期:19~22歳】 偏差値に応じた大学に進む。

【就業期: 23~30歳】 これまでのスキルや経験を生かして働き、稼ぐ。一般的には一つの会社、一つの地域に住うことが多い。

【子育て期:31~50歳】 子どもが生まれ、住む場所に 制約を受けながら働く。また、 この時期に住まいを購入する ことが多い。

【高齢期:50~70歳】 会社において後輩を育成成し、マネジメント側として働く。 孫の面倒をみるなどライフステージにおいて余裕がある期間

【終活期:70~100歳】 老人ホームなど周りの手を借り、人生を締めくくる。

無拠点居住時代の人生

【幼少期:0~5歳】

【青年期:19~22歳】 通信制大学やオンライン講義 など可能性が広がっている。

【就業期: $23 \sim 30$ 歳】 リモートワークについては、スクにつけるできるできるできません。 大きを持つる。 発展により、でしてい更なるなのを発展により、地域にの安く大きなな。

【子育て期:31~50歳】

● 【高齢期:50~70歳】 立場が上がるにつれ、より現よ 場から離れることができる身体 うになる。移動に対する身体

的負担が大きくなり、。 リモートワークが進む。

【終活期:70~100歳】 どこに住んでいてもスマート デバイスで体調を管理できき、 緊急時のみ医者が対応でスト ようになることで医療コスト も下がる。 子育てしやすい 地域 を目指す。

人生において一番 お金を使う時期であ る世代をどう活かすか。



1.1 子育てシェアスペース Omusubi

1.1.1 活動概要と活動対象範囲

2020年2月、気仙沼市に子育てシェアスペース Omusubi がオープンした。一時預かり専門託児所はママが安心して用事を済ませたり、自分のために時間を使えるようにするため。女性専用シェアハウスは、いつか子どもを持つかもしれない彼女たちが、子どもとの生活を身近に感じて欲しいと思い併設した。リラックスルームとは、託児に子どもを預けたママが同じ敷地内でゆっくりできるママのための休憩所であり、ママたちがさらに羽が伸ばせる場所にするために改修した。

1.1.2 活動に至った理由や背景

Omusubiのコンセプトは【ひとりにならない・ひとりになれる】である。ママがママの役割を下ろし、一個人として過ごす時間を保証することによって、ママの元気につながり、それが子どもや家庭、地域の元気にもつながると考えている。また、託児に預けて家に帰っても家事をしてしまう、同居の親や周囲の目が気になるという声もあり、ママが安心して過ごせるようリラックスルームを同じ施設内に設けた。

1.1.3 活動内容と成果

1.1.3.10musubi 施設内に「ママのリラックスルーム」を設計・施工

気仙沼市で子育てをしているママからいただいた意見をもとに設計をした。 7月からの改修作業には、同じ施設内にある託児所に子どもを預けてママに 参加してもらうことで、子どもと離れて作業に集中する楽しさを感じても らったり、Omusubi が作りたいスペースについてじっくり説明したりする時 間をとることができた。

結果として、子育てママ・大学生・未婚男性・子育てを終えた祖父・地域の大工さんなど、多くの住民を巻き込むことができ、11月5日の「リラックスルーム」オープンまでにのべ214名の人の手によって改修を行った。一つの作業をみんなで行うことで自然と会話が生まれ、ママたちから子育てについてゆっくりと話を聞くことができた。改修中に聞いた意見をもとに毎月リラックスルームでイベントを行っている。

1.1.3.2 けせんぬまコソダテノミカタ基金運用開始

市内の多くの子育で支援団体が、復興助成金がなくなることにより予算が乏しくなり、新しいチャレンジや活動の継続が難しくなった。そこで市内の子育で支援団体が協力をして寄付集めを行う基金を立ち上げた。

・寄付集め

事務局として他の子育で支援団体とともに市内 12 社の企業訪問を行い、計 336,000 円の寄付を集めた。寄付のお願いをすると同時に、企業の子育でに おける課題の共有や情報交換を行なった。

各団体の企画作成、伴走

基金に参加した子育で支援団体 4 団体それぞれが寄付を使って行う活動を一緒に考え、活動のサポートを行なった。



地元ママたちが集まり理想の図面 WSを行った



小学生もママもスタッフも混ぜこぜ の壁塗りWS



リラックスルームの完成



多くの利用者で賑わうオープン当日



1.2 錦江町ゲストハウス Yorodde

本章では、鹿児島県肝属郡錦江町から業務提携を受けた「錦江町ゲストハウス運営支援業務」 の仕様書をもとに業務全般を整理する。

1.2.0. はじめに

1.2.0.1 業務の目的

錦江町 が 2019 年度に 商店街に位置する 町内の 空き家 を 10 年間借上げ、リノベーションし、宿泊・交流 施設として 整備 した 創業支援施設 A 及び B を 、未来づくり専門員が ゲスト ハウスとして事業を展開する。

この 創業支援 施設 の設置目的は、独創性及び挑戦意欲に富み、新規の事業を展開しようとしている創業者を育成し、新たな交流、コミュニティづくり及び関係人口の拡大を図るとともに地域課題を解決しながら地域産業の発展に資するものであるため、経営にあたる未来づくり専門員への経営・企画力支援を目的とする。



- (1)ゲストハウス運営支援業務
- ①ゲスト ハウスの 経営 全般の指導
- ②ゲストハウスでのイベント企画及び指導 (町民とのワークショップ含む)
- ③当該施設等への大学生などのセルフリノベーション参加への斡旋、紹介
- (2)起業・創業 指導業務
- ①未来づくり専門員への新たな事業づくり、資金調達、チームづくり等の指導(3)その他
- ①上記(1)及び(2)のほか、事業に主体的に参加する人材の確保や育成のために有効な手法があれば併せて指導すること。
- ②業務実施にあたっては、打合せも含め4回以上は錦江町内で実施すること。
- ③必要に応じ、未来づくり専門員等とインターネット会議を行うこと。
- ④指導回数や出張、錦江町滞在日数の過多による委託費の追加は行わない。

1.2.0.3 コロナウイルスの対応

本事業年度は、世界的に新型コロナウイルス感染症(以下、「コロナ」)による社会的脅威 及び経済損失の影響を強く受ける年度となった。

事業の実施に至っては、感染拡大防止に最大限努めるため、最低限の現地訪問、オンライン会議システム活用など対策を取った。

なお、事業実施期間内において、本事業を起因としたコロナ罹患者は確認されていない。

1.2.1. ゲストハウス運営支援業務

本章では、(1)ゲストハウス運営支援業務について事業実施内容を整理する。

1.2.1.1 目的

仕様書より再度、下記の通り転載する。

- ①ゲスト ハウスの経営全般の指導
- ②ゲストハウスでのイベント企画及び指導(町民とのワークショップ含む)
- ③当該施設等 への大学生などのセルフリノベーション 参加 への斡旋、紹介

1.2.1.2 業務内容

下記の業務を実施した。

1.2.1.2.1 コロナ後の対応検討及び立ち上げ支援

第1回緊急事態宣言が明けた令和2年7月27日~8月3日に弊法人代表理事の田中惇敏 及び気仙沼ゲストハウス"架け橋"スタッフ佐藤京美の2名が支援に入った。

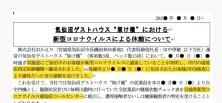
田中が山中氏らと共に Go to 事業やコロナ禍においての経営方針を検討する中、佐藤が



コロナ対策のため常連との懇談の機会とした。 2020.7.29



売上報告 1P 目。全文は資料編に収納。



しております。
・ 感染が判明したお冬様は ● 月● 日から同● 日まで同施設に宿泊されており、当該期間のご宿泊を様及び利用者様へのご連絡を個別にてさせて頂きました。・

施設内においては、関係省庁の指示に基づいて、パブリックスペース・原常・駐車場・風外スペースの南藤を神夜のうちに完了しております。また坂崎昭ゲストハウス・海川衛「は木田・)● F (※) より当面の映像させて間を、前路に「造路を加べいているお客様、本日以降ご宿泊予定だったお客様については、気仙宿市かの別ホテルをご案内させて頂いています。↓

当社では、今後とも「編集展売」コロナウイルス構造第一の・センターと連携は、情報の把握と必要な対応を行ってまいります。これまでも指化では、新型・コウケイルス構造がはかけるため、政府・自然体とり外出し乗車がある地域からの前部を受け入れる可能化を考え、展生ールとなって様々、子が派を扱ってまいりました。今後とも更にお客様の女全の確保、全社員及びそのご家様の女全の確保、総社は大街上へが社会的責任を得一に考えが応じてまいります。お客様、関係の特徴には多べなることをと掛けすることかには存むますが、「実際に当りた何ますは非議権・後しまます。



コロナ発生時のプレスリリース 1P目。全文は 資料編に収納。



POP の作成、掃除マニュアル、集客方法などを検討、実施した。

また、設立時の業務として、レジのテイクアウトの軽減税率設定やロゴ表記などの細かい業務も並行して進めた。

1.2.1.2.2 経営安定化までの月次売上報告作成

以下の項目立ての通り、レジの売上情報をもとに月次売上の報告及び分析を行った。 2020年5月から9月までの取りまとめを田中が担当し、立ち上げ業務が落ち着いた以降 は山中氏に引き継いでいる。

なお, 全文は巻末の資料編に掲載する。

1. 各月総売上額:運営開始時からの売上総額の報告した。

2. カテゴリ別売上額:各月のカテゴリ毎の売上額の表を示し、分析を行った。

3. 商品別売上明細:各月の商品別明細を記載した。

4. 総評:スタッフからの日常のヒアリングをもとにしたアドバイスを行った。

1.2.1.2.3 コロナ発生時の対策マニュアル

万が一、コロナが発生した場合におけるゲストハウスの対策として、気仙沼ゲストハウス"架け橋"のマニュアルを共有した。同じく、マニュアル全文は巻末の資料編に掲載する。

1.2.2. 起業·創業指導業務

本章では、(2)起業・創業指導業務について事業実施内容を整理する。

1.2.2.1 目的

仕様書より再度、下記の通り転載する。

①未来づくり専門員 への新たな事業 づくり、資金調達、チームづくり等の指導

1.2.2.2 業務内容

下記の業務を実施した。

1.2.2.2.1 研修業務

気仙沼市内にて視察研修を行なった。

研修にあたっては、次期ゲストハウスオーナー予定(視察当時)の郡司紗希氏が実際に体験を通して学ぶ機会となることを目的とした。

なお、 巻末資料に郡司氏の日報を掲載する。

•1 日目

日時:2020年9月2日

場所:気仙沼ゲストハウス"架け橋"

(宮城県気仙沼市長磯前林 55 番地 3)

研修内容:スタッフとゲストの距離感をゲストの立場から観察する機会とした。また、その中からリピーターに繋がる施策を学んだ。

• 2 日目

日時:2020年9月3日

場所:気仙沼ゲストハウス"架け橋"および周辺地域

(宮城県気仙沼市長磯前林 55 番地 3)

研修内容:ゲストハウスの会議など1日をスタッフとして過ごすことを通して,スタッフ 間の連携について学ぶ機会とした。また,副次的に事業アイデアを出す上での手法論も学 ぶことができた。

• 3 日目

日時:2020年9月4日

場所:気仙沼ゲストハウス"架け橋"および周辺地域

(宮城県気仙沼市長磯前林 55 番地 3)

研修内容:気仙沼市内の観光関連団体「半島同盟」を訪問した。団体代表の根岸氏との対



子どもたちとの改修を通して学ぶ郡司氏 2020.9.5



錦江町のおいしい食事の提供 2020.9.4



話の中で移住における女性ならではの役割に理解を深めた。また、錦江町の魅力を気仙沼市民や宿泊者に説明する機会を設け、改めて錦江町の良さを考える中日とした。この活動は毎日新聞に掲載された。ちなみに、この時に架け橋に泊まっていた宿泊者は、その後、郡司氏に会うために Yorodde を訪れている。

• 4 日目

日時:2020年9月5日

場所:子育てシェアスペース Omusubi および周辺地域

(宮城県気仙沼市三日町 1-2-5

研修内容:実際に施工中だった子育てシェアスペース Omusubi の施工現場視察並びに子どもと触れ合いながら改修を行った地方創生においての「リノベーション」「子育て環境」の役割の理解を促した。

•5日目

日時:2020年9月6日

場所:気仙沼ゲストハウス"架け橋"および周辺地域

(宮城県気仙沼市長磯前林 55 番地 3)

研修内容:架け橋スタッフの藤岡氏が主催する企画の立案から実行までのスキームを体感した。企画の中で地元の人との関わりを持つことで、住民との交流の適切な距離感を理解する機会となった。

•6日目

日時:2020年9月7日

場所:気仙沼ゲストハウス"架け橋"および周辺地域

(宮城県気仙沼市長磯前林 55 番地 3)

研修内容: 気仙沼市内のゲストハウス事業とは別の同世代の地域おこし協力隊との交流の機会とした。また、総括としてゲストハウスの価値を考える機会を提供した。

1.2.2.2.2 経営会議参加

以下の通り、経営方針を進める会議等に参加してコメントをした。

・2020年8月13日

参加者:新田課長,山中氏,谷川徹氏,田中

内容:取締役会議事録や経営資料を閲覧した谷川氏の起案によって行われた方針策定会議。

・2020年10月9日ほか

参加者:株式会社燈役員

内容:議題や役員会前の Yorodde スタッフとの個別ヒアリングをもとに参加する必要のあると判断した定例役員会に参加した。

・2020年12月24日ほか

参加者;Yorodde 関係者

内容:チームビルディングを行う上で、任意の人が退任の意を示す、不快感を感じた旨の 相談を受けた場合、事態の収集に努めた。

・2020年12月2日

参加者:株式会社燈株主

内容:設立後、初となる株主総会を開催した。開催にあたっては、田中が司会を務めた。

1.2.3. その他業務

1.2.3.1 目的

仕様書より、再度下記の通り転記する。

- ①上記(1)及び(2)のほか、事業に主体的に参加する人材の確保や育成のために有効な手法があれば併せて指導すること。
- ②業務実施にあたっては、打合せも含め4回以上は錦江町内で実施すること。
- ③必要に応じ、未来づくり専門員等とインターネット会議を行うこと。
- ④指導回数や出張、錦江町滞在日数の過多による委託費の追加は行わない。



1.2.3.2 業務内容

1.2.3.2.1 学生団体連携

昨年度に連携関係を構築した「東京理科大学建築サークル DOC」と共に改修工事を進めていくことを検討し、会議を重ね、代表の砂田氏と花園地での打ち合わせを進めたが、コロナ対応により実現には至らなかった。

1.2.3.2.2 現地業務

以下 2 回の計 13 日間の通り、NPO 法人 Cloud JAPAN スタッフが錦江町内で本事業を実施した。

令和2年7月27日~8月3日:立ち上げ支援

令和2年11月28日~12月3日:人数を制限した総会等の重要事項の会議

1.2.4. まとめ

歴史を大きく変えるであろうコロナ禍において、全国のゲストハウスが軒並み閉業に追い 込まれる中、大きな成果を上げ、活躍している錦江町の取り組みは、今後の地方創生にお いて模範となるだろう。その取り組みに少しでも関わらせて頂いたことに心から感謝して いる。

この活躍は、錦江町民、役場職員、未来づくり専門員の皆様一人ひとりの協力なくしてはあり得ないものであり、ポストコロナにおいても、その人の温かさそのものが錦江町の活性化に繋がる本質的価値になると感じている。

一方、本事業を振り返ると、社会情勢を背景にしても当初契約よりコミットできなかった ことに心より謝罪したい。令和3年度についてもコロナ収束の目処は立たず、コロナ前を ベースにしたゲストハウス運営ノウハウでは対応できないことは明らかである。

この状況をみんなが同じスタート台に立っているという好機に捉え,今期に貢献できなかった分を発揮し、新たなゴールを探っていきたい。



1.3 建築ストック活用の大衆化を目指した支援の研究

来年度から研究事業を進めるにあたり、以下の通り、本年度は研究計画を立てた。

1.3.1. 研究の背景

昨今,建築分野では研究の場を都会から地方へ広がりを見せている。特に 空き家などの建築ストック活用に関する研究は,設計・施工に加えて,運営 面を含めて検討する必要がある。

その中で、建築ストックの活用事例として「ゲストハウス」という言葉を聞くことが多くなった。首都圏、観光地、地方など全国様々な場所に増えてきているが、旅館業法上の種別(多くの場合、ゲストハウスは旅館業法上の簡易宿所であるが、民泊や旅館再活用の事例も少なくない。中には法的な手続きを行なっていないこともある。)やコンセプト(基本的には交流を主眼に置くが、昨今はプライバシー確保や清潔感を重視するゲストハウスも増えてきた。)などに相違が見られ、ゲストハウスという言葉に正確な定義は存在していない。一方、共通して言えることは「地域の人的ネットワーク構築とインターネットを上手く組み合わせることができれば建築的知識や経験はない移住者が DIY によるゲストハウス改修を実現することが可能であり、この手法は、若い世代の新たな空き家活用手法として評価」※できる点であり、今後もこういった活用は増えていくであろう。

被災地の住民と観光客の接点となり、旅館業の売上を復興支援に還元する「気仙沼ゲストハウス "架け橋"」をはじめとして、これまで 6 年間にわたって地方における建築ストックの活用を支援してきた。私たち NPO 法人 Cloud JAPAN では、建築計画学の立場から、設計施工に地域住民が関わることが運用後にどういった効果を見出すのか、社会起業家の活動の場所として空き家等にどのような可能性があるかを活用を通して見出した結果をもとにまとめてきた。このような社会課題の解決モデル及び研究活動を評価していただき、現在では地方自治体を中心に、空き家活用支援の依頼を受け、これまで全国15 箇所の空き家活用を支援してきた。一方、私たちが一度に支援できる件数は最大年間 2 件程度と属人的に知見を広めることに限界を感じている。

1.3.2. 研究テーマ

2011年3月11日,東日本大震災が日本を襲った。被災地沿岸では震災の影響により全国の地方以上に住み手を失った家が増え続けた。その空き家は震災当時からボランティアや復旧工事関係の労働者らが滞在する受け皿として活用され始めた。発災から年月が進む中で単なる滞在場所としての機能は落ち着いてきたものの,観光客の受け皿や地域活性化に資する目的として改修する動きは現在になっても盛んに見られる。

2020年3月からコロナウイルス感染防止によるゲストハウスの営業中止は全国で広まり始めた。そのまま倒産・廃業してしまうゲストハウスもあるが、シェアハウス化したり、在宅ワーク用のスペースにしたり、オンライン宿泊会を行ったりなどの別の活動を展開させたゲストハウスも多くあった。

そこで、本研究では、建築ストック活用の議論が活性化してきた過去 10 年間において災害レジリエンスにより発現した little-c (小さな創造性)の中心的な存在となった 2019 年までの東日本大震災の被災地、2020 年以降のゲ



ストハウスを対象に分析することで、建築ストックに関する企画の段階から 持続可能な運営になるまでの方法論(コツ)をパターン・ランゲージの手法 を用いて整理し、明らかにすることが第一義の目的となる。

その上で、建築ストック活用を検討しているソーシャルアントレプレナーに 作成したパターン・ランゲージを公開することにより、全国各地の建築ストックの活用に寄与できたことを確認することが本研究の最終的な目的とする。

1.3.3. 研究方法

まず、これまで支援してきた空き家活用モデルと社会的な評価の高い建築ストック活用モデルの運営者を合わせて5名程度選出する。各々のヒアリングのマイニングから持続可能な運営における共通点を見出し、パターン・ランゲージの手法を用いて方法論を抽出する。更に、改修前の図面を収集・改修後の図面の実測を行い、空間構成の変化と上記の持続可能な運営における共通点のトランザクションを探る。

最後に、この研究結果をコロナ禍でも優秀な成績をあげた全国のゲストハウスの運営者に有用性を確認してもらい、日本建築学会にて発表する。

その方法論を NPO 法人 Cloud JAPAN の Web サイトに使いやすい形で実装して、全国の地域おこし協力隊や行政など建築ストックの活用を考えているソーシャルアントレプレナーに活用してもらう。その上で、私たちがこれまで進めてきた俗人的な支援方法との差異を分析し、効果を測定する。

1.3.4. 研究実施体制

NPO 法人 Cloud JAPAN では、3 名の地域おこし協力隊を気仙沼市から受けていることをはじめとして、全国 9 名の地域おこし協力隊の支援や行政連携、地域との共働事業を行ってきた。今回は、企業研究者の木原葵氏(専攻:社会学、所属:NPO 法人 Cloud JAPAN)及び空き家活用を進める山中陽氏(実業家、所属:株式会社燈)との共同研究として実施していく。

1.3.5. 期待される効果

まず、建築計画学の観点から、設計や施工等、建築的に専門的な過程を踏むことにより難しいと考えられ体系化されていなかった建築ストックの活用の方法論を見出すことができる。特に、空き家においては200㎡以下の場合(建築基準法上の用途変更申請が必要ない)が多く、安全性を担保しながら活用が進むことが想定される。

次に、設計施工の過程が、完成後の運用に良い影響を与えることを明らかにすることにより、活用を検討しているソーシャルアントレプレナーが創造性を発揮できる機会に繋がる。具体的には、設計の過程においては、想定している利用者を巻き込むことでより良い改修案に繋がったり、施工の過程においては、近隣住民を巻き込むことで住民自らが建物に愛着を持ち完成後に継続して利用してくれたりするといったことが挙げられる。

※大野銀河,山本幸子:農山村地域における移住者主体による空き家を転用したゲストハウスの改修内容・手法と経営形態,日本建築学会大会学術講演 梗概集,pp.121-122,2017.8



2. ソーシャルアントレプレナーが集う場の運営支援事業

本事業では、全国での活動支援するにあたり、経験を貯蓄し続けること、 つまり私たち自身もソーシャルアントレプレナーであり続けることが大事で あると感じており、「気仙沼ゲストハウス"架け橋"」を運営している。

2.1 気仙沼ゲストハウス "架け橋"

気仙沼ゲストハウス"架け橋"(2019年度月平均売上524,043円⁽¹⁾=①)は、宮城県気仙沼市において2017年から営業しているゲストハウスである。新型コロナウイルスの影響を受け、市内旅館業の中で最速となる4月1日から5月30日まで一般開放の中止を決定した。その後、6月から12月までは人数を限定した飲食業及び旅館業を行っており、2021年1月から再び営業を中止するまでの間、9つに大別される新たな活動を実施した。

(1) 移住者感染予防隔離施設活用

休業後すぐの4月8日から市内への新規移住者の移住後2週間の待機施設として架け橋を運用した。代表の私が利用者と共に隔離され、他スタッフが食材等を届けた。5月上旬も同様に運用し、計8名が滞在した。

(2) 新商品開発

同時並行して 4 月から採用された当時 21 歳の新スタッフ 3 名を中心に T シャツをデザイン, 販売した。7 月 5 日までの売上は, 284,600 円 (/① =0.54 ヶ月分) となっている。

(3) オンライン販売サイト立ち上げ

同じく新スタッフを中心に 5 月 4 日にオンラインストアを立ち上げた。 7 月 5 日までのオンラインストア経由の売上は 478,600 円(/①=0.91 ヶ月分) となっている。

(4) 先売券

オンラインサイトを通して宿泊予約券を販売した。26名から222,000円(/ ① =0.42 ヶ月分)の購入があった。

(5) オンライン宿泊会

休業期間を挟む期間に会議システム Zoom を活用したオンライン宿泊企画を5月の2回は完全オンライン,6月の4回は宿泊者とオンライン参加者を繋ぐ形で開催した。合計48名参加している。

(6) 日本全国旅(した気になって)応援ツアー

架け橋では、Go To 事業の全国開始日 7月 22日に合わせて事前手続きを済ませており、積極的に活用していった。開始当初は、気仙沼市民が宿 A に泊まることを目的とした企画を行った。各回で各都道府県持ち回りの食材を宿 A に届けてもらい、その食材を送ってくれた生産者や宿運営者にオンラインで食事会に参加してもらう企画である。宮城県事業である「仙台・宮城すずめのお宿キャンペーン」によって東北 6 件+新潟県民が最大 75% 割引になることも相まって多くの参加者を得て、12 月末までの本企画の売上は625,000 円 (/①=1.19 ヶ月分)となった。

(7) ゲストハウスでシェア生活

全国の大学生向けに企画を行った。これは、大学の講義がオンラインやオンデマンドになったことを背景に大学生が個人宅のみの生活スタイルに不安を抱いていることに着目し、1週間の滞在期間中は昼間は講義を受け、空いた時間に自然を感じ、観光をし、同じ大学生と語らい合う場を提供すること



を目的とした。この企画は他の宿では行われていることが少なく、全国放送にも取り上げられた。この理由をスタッフは「私自身が大学を休学していて、友達から生の声を聞けたから開催できた。このような企画のために通常営業を止めることを許してくれる宿オーナーに感謝している。」と話した。12月末までの本企画の売上は586,000円(/①=1.12ヶ月分)となった。

参加者(大阪在住,大学4年生)は、厳しい社会情勢の中で就活と卒論執 筆が重なり、向精神薬を飲むほど精神的に辛い時期があったが、企画に参加 した時に自分だけではないことを感じ、その後も企画に参加した同世代と励 まし合いながら過ごすことができたと感想を述べている。

(8) 支援基金設立

閉業に際して全国からの寄付及びオンライン販売サイトの寄付つき商品の売上が集まった。この寄付・売上を原資に、コロナの影響を受けた世帯(気仙沼市が好きな学生 / 子育て世帯)へ7,400円(2泊分)の現金送金,もしくは、気仙沼市で購入できる1万円相当の物品郵送を行うための基金を設立した。

(9) 寄付募集

法人への寄付として、震災当時から宿泊していたボランティア派遣団体のスタッフや参加者ら54名から計311,137円(/①=0.59ヶ月分)を受けた。一方、昼間の飲食営業(絵本カフェ架け橋)は2020年3月から予約営業・イベントのみ運営し、4月から6月までは一切の営業を中止した。その後、2021年3月現在まで予約営業・イベント・出張企画を運営している。

2020年2月末頃より飲食事業代表の3児の母であるスタッフ含む子育で中のスタッフが自主的に社会のニーズを先読みしてマスクの製造販売を決めた。マスクの製造・梱包はスタッフの自宅及び外部の出入りが少ないシェアハウスを活用して行い,販売は宿,託児所他,気仙沼観光協会や弁当屋等の委託販売,ネット販売を行った。

地元紙に大きく取り上げられた点、他事業者よりマスク企画開始が早かったこともあり、7月5日までのマスク販売(大人マスク400円/子どもマスク300円)売上は428,800円(/①=0.82ヶ月分)となった。

全体を通しての収入は、コロナ前の挙動を示さなかったものの、2020年10・11月を例に取ると、昨年比で平均2.93倍の増加がみられており、利用者の波がずれただけ(**図1**)で、コロナは年間の収入に影響を与えていない。

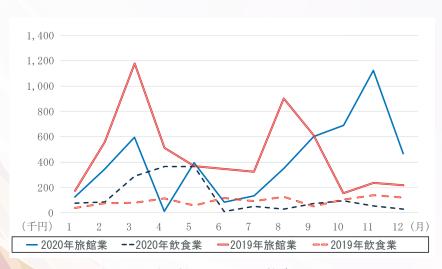


図1 架け橋の月次収入の比較グラフ



3. ソーシャルアントレプレナーの資金調達支援事業

本事業では、クラウドファンディングを通して支援先団体の資金調達を支援している。多様なクラウドファンディング提供サービスが登場する中、プロジェクト内容や返礼品の種別などによってサービスを使い分けることが多くなった社会的背景を踏まえ、2020年4月末をもって CAMPFIRE との提携契約を解消した。

2020年度は、コロナによりチャレンジが生まれる社会情勢ではなかったため、支援団体数は0団体となったが、来年度は積極的に様々なクラウドファンディング提供サービスを活用し、ソーシャルアントレプレナーの支援を行っていく。

4. 地域で活動するソーシャルアントレプレナーに係る情報発信事業 本事業では、情報を取りまとめ発信することでソーシャルアントレプレナーを支援している。

4.1 講演活動

2020年度は以下の通り、6本の講演 (オンライン,オンデマンド含む)を行った。

日にち	場所	内容	参加人数
7月5日	九州共立大学	KKU 北九州学	120人
10月2日	気仙沼市役所	市長朝活会	市長
10月28日	オンライン	MAKERS OPEN CAMPUS	100人
	(ETIC.)		
1月10日	オンライン	震災 10 年特別企画	10人
	(コラボなみらい)		
2月12日	オンライン	復興ミーティング	30人
	(宮城県庁)		
3月5日	オンデマンド	復興と起業	40 人
	(遠賀中学校)		

5. ソーシャルアントレプレナーの育成及び事業促進の教育支援事業 本事業では、事業運営団体に実際に所属し、教育的な視座からソーシャル アントレプレナーを支援している。

 地域
 会社名
 関係
 事業内容

 鹿児島県
 株式会社燈
 役員
 定例役員会での指導

 福岡県
 NPO 法人 RAS 研究会
 役員
 資料の作成・会議運営

 全国
 株式会社キタイエ
 業務委託
 事業運営のサポート

6. 運営組織

以下の通り、役員の役職と所属をまとめ、社員の名簿をまとめる。

代表理事:田中惇敏(慶應義塾大学SFC後期博士課程)

副代表理事: 半沢 裕子(一般社団法人おりがみ(登記準備中)代表理事)

理事:喜多恒介(株式会社キタイエ代表取締役)

小出悟(みしおね横丁 ワルンマハール店長)

川嶋 奎(気仙沼市地域おこし協力隊,一般社団法人 Omusubi)

監事:谷川徹(e.lab代表)

社員: 君塚聖偉、藤岡愛理、佐藤京美、半沢裕子、鈴木和海、竹中幸、佐川彩花、 佐藤沙織、菅原アンナ、伊藤愛 、岩渕福美、高田美由紀、佐藤慶治、青木千弓、 川嶋奎、志田ももこ

7. 取材対応

代表の田中が指導を頂いている駒崎弘樹さん(認定 NPO 法人フローレンス)の言葉に「NPO の広報は、事業の広報ではなく、課題の広報。」がある。私たち NPO 法人 Cloud JAPAN も潜在的な課題を課題として切り取ることで社会に認識してもらい、課題を解決するコツを広めるために情報発信を進めている。

7.1 書籍出版

2021/03/04

今年度は発刊していない。

7.2 新聞、メディア

日付	媒体	内容
2020/04/03	三陸新報	ゲストハウス営業停止
2020/07/10	三陸新報	オンライン宿泊会
2020/09/22	朝日新聞	全国旅(した気になって)応援ツア
2020/09/27	毎日新聞	全国旅(した気になって)応援ツア
https://mainic	hi.jp/articles/202009	927/k00/00m/040/009000c
2020/10/14	JAM THE WORLD	ゲストハウスの新企画紹介
2020/10/28	三陸新報	絵本カフェの藍染
2020/11/04	毎日新聞	ゲストハウスでシェア生活
https://mainic	hi.jp/articles/20201	104/k00/00m/040/027000c
2020/11/05	NHK てれまさむね	ゲストハウスでシェア生活
2020/11/20	NHK おはよう日本	ゲストハウスでシェア生活

ゲストハウス架け橋

https://www.jukushin.com/archives/45010

慶應塾生新聞



2020 年度スタッフ集合写真

8.1 2 0 2 0 年度活動計算書

2020年 4月 1日 ~ 2021年 3月 31日まで

(単位:円)

科目			金額				
経常収益							
1. 受取会	⋛						
	員受取会費	54,000					
賛助会	会員受取会費	0	54,000				
2. 受取	5付金						
受取智	 F 付金	327,037	327,037				
3. 受取期	b成 金等						
受取么	公的補助金	200,000					
	公的助成金	3,586,677					
		1,000,000	4,786,677				
4. 事業に		2,111,111	-,,				
事業収		13,377,598	13,377,598				
5. その他		13,011,030	10,011,000				
受取和		30					
全 収7			5 572 022				
		5,573,892	5,573,922	04 110 0			
経常収益: 経常費用	il			24,119,2			
1. 事業3							
(1)人							
	員報酬	0					
	料手当	11,224,343					
	利厚生費	0	γ				
	定福利費	182,326					
人	件費計	11,406,669					
(2)そ	の他経費						
通	信運搬費	148,733	-/A				
	借料	400,000					
	代家賃	780,000					
	費交通費	282,000					
	会費	1,999,368					
	道光熱費	966,330					
	拉手数料	6,740					
	上原価	-					
		510,189					
	繕費 4.255-78.#	29,150					
	生管理費	59,400					
	礼謝金	1,012,735					
	刷製本費	454,300					
	品消耗品費	3,100,956					
	費	395,012					
	の他経費計	10,144,913					
事業犯			21,551,582				
2. 管理							
(1)人	件費						
	員報酬	0					
	料手当	0					
	定福利費	0					
	件費計	Ö					
	の他経費	·					
	信運搬費	35,590					
	代家賃	240,000					
	税公課	72,000					
	払手数料 除料	2,740					
	険料 の他奴職 計	63,320					
	の他経費計	413,650	410.050				
管理費計			413,650				
経常費用				21,965,2			
	E味財産増減額			2,154,0			
前期制	越正味財産額			2,778,2			
	越正味財産額			4,932,2			

(単	

									(単位:円)
	科目	ソーシャルアント レプレナーおよ びその関係者が 集5場づくり支援 事業	ソーシャルアント レプレナーおよ びその関係者が 集5場運営事業	ソーシャルアント レプレナーの資 金調達支援事 業	地域で活動する ソーシャルアント レプレナーにか かわる情報発信 事業	ソーシャルアント レプレナーおよ びその関係者の 育成および事業 促進のための教 育支援事業	事業部門計	管理部門	合計
	常収益								
	受取会費	0	0	0	0	0	0	54,000	54,000
2.		10,000	0	0	0	0	10,000	317,037	327,037
3.	受取助成金等	0	0	0	0	0	0	0	0
	受取公的補助金	0	0	0	0	0	0	200,000	200,000
	受取公的助成金	855,000	509,677	0	0	0	1,364,677	2,222,000	3,586,677
	受取民間助成金	0	1,000,000	0	0	0	1,000,000	0	1,000,000
	事業収益	2,884,470	7,648,968	0	2,244,160	600,000	13,377,598	0	13,377,598
	その他収益	0	0	0	0	0	0	5,573,922	5,573,922
	常収益計	3,749,470	9,158,645	0	2,244,160	600,000	15,752,275	8,366,959	24,119,234
	常費用								
(1)	人件費								
	役員報酬	0	0	0	0	0	0	0	0
	給料手当	4,369,550	6,854,793	0	0	0	11,224,343	0	11,224,343
	福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0
	法定福利費	9,020	173,306	0	0	0	182,326	0	182,326
	人件費計	4,378,570	7,028,099	0	0	0	11,406,669	0	11,406,669
(2)	その他経費								
	通信運搬費	28,456	98,277	22,000	0	0	148,733	35,590	184,323
	賃借料	0	400,000	0	0	0	400,000	0	400,000
	地代家賃	780,000	0	0	0	0	780,000	240,000	1,020,000
	旅費交通費	0	210,000	0	0	72,000	282,000	0	282,000
	諸会費	0	1,950,000	0	49,368	0	1,999,368	0	1,999,368
	水道光熱費	559,847	406,483	0	0	0	966,330	0	966,330
	租税公課	0	0	0	0	0	0	72,000	72,000
	支払手数料	0	6,740	0	0	0	6,740	2,740	9,480
	売上原価	158,284	351,905	0	0	0	510,189	0	510,189
	修繕費	9,350	19,800	0	0	0	29,150	0	29,150
	衛生管理費	0	59,400	0	0	0	59,400	0	59,400
	協礼謝金	1,012,735	0	0	0	0	1,012,735	0	1,012,735
	印刷製本費	454,300	0	0	0	0	454,300	0	454,300
	備品消耗品費	7,256	3,093,700	0	0	0	3,100,956	0	3,100,956
	雑費	0	395,012	0	0	0	395,012	0	395,012
	保険料	0	0	0	0	0	0	63,320	63,320
	その他経費計	3,010,228	6,991,317	22,000	49,368	72,000	10,144,913	413,650	10,558,563
	常費用計	7,388,798	14,019,416	22,000	49,368	72,000	21,551,582	413,650	21,965,232
	当期経常増減額	△ 3,639,328	△ 4,860,771	△ 22,000	2,194,792	528,000	△ 5,799,307	7,953,309	2,154,002



僕と僕らの暮らしの豊かさを追求する一

昨年度は、多くの方が苦しみ、一致団結が迫られる年でした。

医療関係者はじめ今の社会の困難に立ち向かってくださった全ての皆様に感謝すると共に、大変な思いをされた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

私たち NPO 法人 Cloud JAPAN についても、マスク作り・休業対応・感染リスクを抱えながらの隔離施設運営・Goto をはじめとする資料作成など様々ありましたが、振り返ると怒涛の震災からの 10 年間の中では大変だった印象の薄い 1 年だったと振り返ることができます。

これは、大変素晴らしい支援者に恵まれ、多くの仲間に支えてもらい、辛い 時に声をかけてくださった皆様の応援のおかげです。

生活面では会いたい人に会いたい時に会えないことをはじめとする大きな変化がある年でした。その中だったからこそ、暮らしの豊かさや人の温かさを大切にしたいと気づける良い1年だったのではないでしょうか。

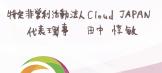
それでは、改めて豊かさ・温かさとはなんだろう。それはどこから来るもの だろう。

私たち自身、この一年に震災からの10年間を総括して振り返りをする中で考えることができ、その上に11年目を乗せることができることに感謝します。来年度は豊かに暮らすために、月極保育施設、住民票、仕事、家、、、既存の「固定」「所有」を基にする仕組みを変えていく仕組みを事業活動・研究活動を通して提唱していきたいと思います。

2021年度も緊急事態宣言騒動に続き、日々喧騒の中での1年となりそうです。弊法人でも様々な媒体を通してお伝えしてきましたが、ゲストハウス架け橋は緊急事態宣言もあり5月末までお休み、絵本カフェは昨年3月から休業中です。お客様の皆様にはご迷惑おかけしますが、社会が休むよう要求するときはゆっくり休み、今後を見据える時間を仲間達と皆様と過ごせれば幸いです。事業内容も冒頭のビジョンに基づき、大きくピボットしていきますので、来年度の発表をお楽しみにしていてください。

この新時代を大切な人の幸せを中心に回していき、大切な人との楽しく、豊かで、愛の溢れる暮らしを大切にします。

今年度もよろしくお願い申し上げます。



Cloud JAPAN

